

黒大豆草対策に後手、生育不良

梅雨時期に入り、黒大豆田が雑草が生え作業が後手に回りました。大將軍38、の草対策に7月11日に6人半日、7月12日に3人半日、7月13日5人半日、と時間を費やしました。稗、外国からの雑草が長く伸び、湿田で管理機が入らず、作業がはかどりません。そんな状態でしたが、会員様の連日、暑い中、出役をしていただきましたおかげで何とか格好がつかしました。ありがとうございました。

今年は定植した後、雨天続きのせいで、発育が悪い圃場が発見されました。京都府普及所に見に来ていただき、返事が来ました。「さび病」との判断です。栽培資料を見てみますと、「さび病」の被害と対策は、次の通りでした。

被害

- ・生育後期に朝つゆが多く、長く残るような条件で老成した葉、茎に発生する。
- ・被害葉は黄変して早く落下する。
- ・多発性条件下で株は枯死し、種子は、しいな状となる。

対策

- ・連作を避ける。
- ・窒素質肥料を多用せず、カリ肥料を増施すると発病が軽くなる。
- ・被害茎葉、莢等は翌年の伝染源となるので、集めて処分して圃場に残さない。

対策と記しているが現在の黒豆には対策にならない。

京都府普及センターの指導では、アミスタ20フロアブルと言う薬剤があるらしい。早速購入し、散布をしたいと思います。

小豆の播種完了

雨天続きで小豆が播種が上手くいか心配しておりました。昨年は、雨天続きで播種を失敗し、鹿の害にも合い、まき直しをしました。播種時期の失敗が収穫量にも影響し、不作の年となりました。

早く蒔けば「つるボケ」する。「つるボケ」と言うのは、ふつう小豆の木につるが出て実がならない不思議な現象です。窒素質の肥料を多くやればつるが出ます。遅く蒔けば、収穫時に霜にあいいます。霜にあてれば収穫できません。毎年、塩田谷地域で、小豆を上手に作付けされている方がおられる。今年は、その方の圃場を真似して畝たてまでしました。その方は、7月上旬に播種されました。その方に質問したところ、標準どおり7月中旬から下旬に播種すると収穫が遅くなり、霜にあう場合がある。従って7月上旬に蒔く。しかし窒素系肥料の施肥を多くすると木ばかり大きくなり、実はない。窒素肥料に細心の注意が必要である。天候、圃場によっても異なるし。とりあえず窒素肥料を控えめにすることが肝心であると教えていただきました。

7月14日(金)、早朝から、播種作業をお世話になりました。今年は、鹿網をしっかりといただき、窒素系肥料は、播種時は施肥せず、土寄せ前に少量施肥することに決めました。播種してから日照りの日が続きましたが、今日、良い雨をいただきました。これで芽を出してくれると信じております。播種作業に出役していただきました会員さまには、本当に早朝よりお世話になりました。今年には豊作を目指し手抜きをせず頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願い申し上げます。

美しいふるさとをみんなの力で守っていこう